生研20周年に当たって

菊 池 眞 一
8代所長

菊 池 教 授

生産技術研究所が設立されて20年の歳月が流れたとは光陰矢の如しという言葉がいまさらに思い出される．振返って見るとこの20年間はその初期においてやや経済的に苦難の時代であったがその後概して平和な時代であった．私個人の事をいうことを許されるならばちょうどこの20年に当たって東京大学を停年で去るので私自身の生研におけるあり方を振返えることになる．さいわい立派な協力者本多教授はじめ吉永助手，佐々木技官，高橋技官その他多くの有能な大学院学生に恵まれて愉快な日々を送ることが出来たことは感謝にたえない．その割に十分な業績を上げ得なかったことをはずかしく思う．

生産技術研究所はその歴史の物語るように東京帝国大学第二工学部から改組されてできた工学と工業に関する研究の推進と，あわせて研究者と高級技術者の養成を使命とする付置研究所である．その最大の特徴は各方面の専門家を擁しているということであって，そういう点を生かした総合研究の最大なるものとしてロケットの研究があったし，試験溶鉱炉，自動車工学，自動制御，写真測量の研究なども数分野の人が協力したよき例である．今後もこういう研究をどしどしやって頂きたい．生研の良さは教官同志の間に何等の反目もなく和気あいあいとしていることであって，これが協同研究をやるに最も必要な条件であることはいうまでもない．

今回東大の未曽有の紛争は東大の古い伝統の矛盾が若い学生により指摘されたものであってこの紛争は一年の時を経過して間もなく終ると思われるが，いずれにしても相当の改革を必要とすることはいうまでもないことである．生産技術研究所は東大90年に比べれば未だ若く，そうおりがたまっていないようにも考えられるが，なかなかそうでもなく相当動脈硬化になっているところがあるように思われる．その一つは部の制度であって5つの部に分れて連絡など大変よいように見えるがセクショナリズムの一原因になっているし，またその一つ一つに相当な事務機構を必要とするのは人員不足の折柄いかがであろうか．

その二は生研は非常に民主的であって多くの委員会によって運営されている．しかし教授，助教授はこの委員会の仕事と学会の役員の仕事をやると相当の時間を割かれ，自ら研究し，または大学院学生などを指導する時間を失って本来の研究機能が低下する．教授．助教授も委員会の仕事をやっていると何となく仕事をやっているような気になるが実は本質的なことはなにもやっていない．この辺が今度の紛争における学生，大学院学生の不満の一因であるか，不思議なことに学生，大学院学生自体またこういうビジネスに参与させよというのであるから日本の研究的ふんい気はますます低下するものと考えざるを得ない．

委員会の第2の弊害は事務系職員の手足をしばり，彼等に自分で物を考え創意工夫する努力を知らず知らずのうちに失わしめることである．したがって委員会は最小限度に止めて研究に努力すべきであろう．

最後に生研の勤務時間について一言いいたい．本所のように研究を主とするところでは，なかなか仕事の都合によっては一定時間に終らず，夜遅くまで，なかには徹夜研究をされる研究室もある．しかしそれだからといって朝の時間があまりルーズになることは望ましくない．とくに事務系においてはそうでなければならないと考える．

大変不景気なことを書いてしまったので最後に積極的な提言として終わりたい．本研究所は大学付置研究所としては最大なものである，スタッフも立派であると考えてよい．従ってここでやる仕事もまた設備も世界一流でありたい．設備については文部省予算の制約もあるが東大紛争が終ったら一つ大々的に業界に寄付をお願いしてはどうであろうか．また特にビジネス，図書，運営などについてアメリカの一流の研究所を見習う必要があろう．こう考えると本研究所の前途は有望でありその多幸を心から祈る次第である．